平成26年9月1日

福生市議会議長　乙津 豊彦 様

総務文教委員会委員長　武藤 政義

平成26年度 福生市議会総務文教委員会視察報告書

本委員会は、平成26年度行政視察を次のとおり実施しましたので、報告いたします。

1 視察日程

平成26年7月9日（水）～10日（木）

2 視察先及び目的

（1）大阪府八尾市

八尾市指定文化財安中新田会所跡旧植田家住宅について

（2）大阪府池田市

「教育のまち池田」について

3 視察参加者

委 員 長:　武藤 政義
副委員長:　五十嵐 みさ
委　　員:　池田 公三
委　　員:　末次 和夫
委　　員:　杉山 行男
委　　員:　串田 金八
委　　員:　田村 正秋
随　　行　藤井 勲（議会事務局庶務係長）

大阪府八尾市　視察　　【7月9日（水）】

1　市の概要（平成26年6月現在）

（1）面　積　　41.71km²

（2）人　口　　269,566人

（3）世帯数　　120,657世帯

（4）概　要

大阪平野の中部、大阪市の東南部に隣接し、市域西側は概ね平坦で標高は10メートル程度である。市の東部は高安山をはじめとする急峻な生駒山系が控えており、奈良県との府県境を形成している。 市の南端を大和川が流れる他、旧大和川水系である長瀬川、玉串川などの小河川も見られる。

市の南部には八尾空港があり、陸上自衛隊の駐屯地や民間の小型航空機に供用されている。2007年に工業出荷額で東大阪市を抜き、ものづくり都市である同市を上回る産業力を持つ都市である。

気候は、西に大阪湾、東に生駒山地、大阪平野の中央部東に位置する地形的条件により温暖であり、瀬戸内海式気候に属している為比較的降雨の日が少ない。年間平均気温は約17℃。 雪は平地部では滅多に降らないが、1965年3月の大雪で商店街アーケードが倒壊したことがある。年間降水量は約1340.5mm（2010年）。風速は年間平均約2.8m/s（2010年）、湿度は年間平均約58.0%（2009年）。最高気温36.8度（2010年）、最低気温－4.5度（2012年）。

2　視察概要

＜視察地選定の理由＞

福生市では、明治35年に建てられた古民家を取得しており、維持管理をしながら施設整備や公開方法、学校等の活用を検討しております。八尾市においても古民家活用事業を行っているとのことで、参考にすることを大きな目的とし、選定しました。

＜調査事項＞

〇旧植田家復元整備事業について

（1） 事業を行うに至った経緯について

（2） 事業の概要及び予算について

（3） 事業の具体的な内容及び状況について

（4） 事業実施による効果及び問題点について

（5） 今後の取り組みについて

（6） 現地視察

（7） その他

（1） 事業を行うに至った経緯について

1704年の大和川付け替え後、旧川床を利用して多くの新田が開発されました。そのうちのひとつが安中新田です。柏原市の安福寺が開発の中心であったために「安中新田」という名がついたと言われています。開発から50年ほどたった頃、安福寺住職の類縁にあたる植田家が管理を任されることになり、その後150年の長きにわたって新田の支配人を勤めました。

植田家が居住していた屋敷は、会所としても使用されていました。「会所」とは新田の管理に使われた建物のことで、地域の寄り合いの場も兼ねていました。八尾市内のほかの新田会所（山本新田会所、柏村新田会所）が現存しない一方で、植田家の屋敷は増改築を繰り返しながらも、昭和60年代まで実際に使用されていました。

歴史的遺物である植田家の屋敷が、土地、所蔵資料とともに八尾市へ寄贈されたのは、2005年のことです。一般公開にむけて行われた調査での最大の発見は、「安中新田分間絵図」でしょう。絵図はタテ約1.5メートル、ヨコ約6.5メートルに及ぶ巨大なもので、正徳元年（1711年）との記載があり当時の様子を今に伝える貴重な資料です。絵図は市指定文化財に、建物の一部は国登録有形文化財であると同時に市指定文化財になりました。

（2） 事業の概要及び予算について

書画や工芸品、河内木綿などの所蔵品とともに一般公開している。

指定管理料　18,183,950円

利用料金等　　497,400円（平成２４年度決算額）

（3） 事業の具体的な内容及び状況について

①常設展示　主家及び土蔵における生活器具類展示の維持管理

②企画展示

大和川付け替え関連

書画に見る植田家の幕末、明治維新

植田家コレクション～大津絵

道具から見るちょっとむかしのくらし

植田家に残された河内木綿

③旧植田家住宅資料の保存、整理、管理業務

④普及に関する業務　刊行物の発行、講座及び講演会等の開催

⑤学校等の連携に関する業務　見学、出前授業等

⑥地域振興に関する業務　市民参画、協働を推進する事業の実施

⑦広報に関する業務　市広報、ホームページ、ブログ、FMラジオ等

（4） 事業実施による効果及び問題点について

＜効果＞

旧植田家住宅は、江戸時代の集落の成立とともに高く評価され、現在の歴史景観からみて

も貴重な建造物であることから、多くの方々に歴史を知っていただける。
古民家にて様々な事業を行うことで、地域振興にもつながる。
＜問題点＞
利用者数の増加により、維持管理の費用が増す。

（5） 今後の取り組みについて
歴史や文化財の重要性について市民の認識を高め、次代を担う子どもたちにも正しく伝えるため、文化財の活用や情報発信を積極的に推進するとのこと。

（6） 現地視察
次ページ写真参照

（7） その他
＜旧植田家資料館の基本理念＞
　旧植田家概要と整備課題を踏まえて、歴史や文化の継承、或いは市民交流の活性化を最重要点としつつも、周辺環境、景観に配慮し、八尾市民がゆとりと触れ合いを実感、体感出来る施設を目指す。
■安中新田の庄屋、支配人屋敷と出会える場の創出…歴史、文化の継承
■市民が集い、触れ合える場の創出…市民交流の活性化
■レトロ、モダンの香る場の創出…周辺環境への配慮
＜整備の課題＞
①周辺地域の課題
　周辺に点在する史跡等とのネットワーク
　JR八尾駅交差点からのアプローチ
　見学の興味を倍増させる周辺環境
②計画地内の課題
　建物の本格的な修復、補強等の復元作業
　ゆとり、やすらぎ空間創出のオープンスペース確保
　駐輪場の確保
　展示、収蔵スペースの新設
③生活、環境への配慮
　スローライフ空間としての整備
　人や自然にやさしい環境の保持
　周辺地区のまちづくりと調和した整備

JR 大和路線八尾駅から徒歩３分ほどに位置する旧植田家。駅周辺に賑わいは見られませんでしたが、駅から近いということで利用しやすい環境であることは確か。昔ながらの佇まいです。

委員長挨拶として、今回の行政視察を快諾していただいたことに感謝の意を表すると共に、当市でも古民家を取得し、その活用方法を検討しているということを説明させていただきました。

古民家内は思いのほか広く、隅々まで見させていただきました。担当課の職員さんには熱心に説明していただき、この施設を発展させようという熱意が伝わってきました。

昔使っていた様々な道具が展示してありました。上段左から二番目はアイススクリーマーです。下段左側は升。こういうのを見ているだけでも飽きずに過ごすことができます。

大阪府池田市　視察　　【7月10日（木）】

１　市の概要（平成２５年４月現在）

（１）面　積　　22.09km²

（２）人　口　　102,582人

（３）世帯数　　45,915世帯

（４）概　要

都市施設は阪急電鉄沿線及び国道171号沿線の南部を中心に展開し、北部は農地や山地が広がる。植木の産地として有名で大阪府立園芸高校が立地している。早くから阪急電鉄による住宅開発が進み北摂の中心市であったが、池田駅北側の栄町商店街の店主たちが「人の流れが変わる」と反対して、能勢電鉄を川西能勢口に強引に接続させる事になり、そのために川西能勢口駅直前でかなり急なRになってしまっていた。続いて1980年代の池田駅周辺再開発の際にも、かつて駅前にあった阪急電鉄車庫跡地に阪急百貨店を建設する計画も地元の反対運動により頓挫し、いずれも隣の兵庫県川西市に建設された。阪神高速池田線の延長もあるが、主には池田駅北側の栄町商店街の反対により、人の流れどころか人そのものが来ない町にしてしまい、寂れてしまっている。歴史的な町並みが比較的よく保存されているが、近年は中高層マンションの立地が進んできている。

一時、青年会議所を中心とした直接請求方式により、豊能郡豊能町との市町村合併を検討したが、飛び地合併であることなど困難があり、法定合併協議会は解散された。

２　視察概要

＜視察地選定の理由＞

全国的に問題となっている定住化対策について、福生市では早くから模索しているところである。様々な施策が必要とされる中で、教育環境の充実が定住化対策において有効であろうという意見が多い。そういったことから、本市の教育を高める上で、小中一貫教育、英語特区などで成果を挙げている池田市の現状を調査したいということから視察地として選定しました。

＜調査事項＞

〇「教育のまち池田」について

（1）　事業を行うに至った経緯について

（2）　事業の概要及び予算について

（3）　事業の具体的内容および状況について

（4）　事業実施による効果および問題点について

（5）　今後の取り組みについて

（1） 事業を行うに至った経緯について

池田市では、かねてより「教育のまち」をうたい、音楽教育や自然体験学習などで特色のある取り組みを重ねてきました。今、未来を見据えた新しい教育の枠組みで池田の子ども達の育ちを考えるとき、人間関係づくりの基本となるコミュニケーション能力と豊かな心、科学的思考力や情報活用能力の育成が重要となってくる。そういったことから「教育のまち池田」特区事業を組み立てることとなった。

（2） 事業の概要及び予算について

「教育のまち池田」の取り組み

〇教育特区から教育課程特例校へ

池田市では、国に教育特区の認定を受けて、平成16年度から教育特区の取り組みを始めました。英語によるコミュニケーション能力の育成を目的として、小学校1年生から6年生まで「英語活動」を週に1時間、中学校でも選択履修の時間を活用して「英語活動」を週に1時間実施、また、「科学・情報の時間」を小学校の5、6年生に年間20時間設定し、科学的思考の育成に取り組み、平成20年度からは、特区制度の全国化によって、文部科学省指定の「教育課程特例校」の取り組みとして引き継がれております。

〇小中一貫教育について

池田市では、平成19年度から「小中一貫教育」についての調査や研究を始めました。平成20年度から細河中学校区、21年度から石橋中学校区、22年度から北豊島中学校区において、モデル指定を行い、小中一貫教育の研究をしているところです。そして、平成23年度からは、池田中学校区、渋谷中学校区でも研究を開始し、全市展開しています。

〇新たな教育システムづくりについて

小中一貫教育を進めていく上では、地域の教育力を活かし、学校・家庭・地域が協働した教育コミュニティづくり（よこのつながり）が不可欠です。幼児期から義務教育9年間を見通し、一貫した教育の構築（たてのつながり）とともに、2つを基軸とした新たな教育システムの構築に努めてまいります。

〇池田の教育コミュニティづくりについて

よこのつながりとも言える「池田の教育コミュニティづくり」では、「学び」への支援、環境整備への支援、教育活動への支援、ふれあい活動、安全見守り活動等、様々な場面で保護者や地域住民の方々が、子どもたちに関わり、今後も、地域で子どもを育てる学校づくりを推進しております。

一般会計予算約366億円に対し、教育費は約34億5千万円。

（3） 事業の具体的内容および状況について

〇教育特区から教育課程特例校へ

池田市の小中学校では、各学年で英語活動の時間を年間35時間程設けている。歌やゲームなどの楽しい活動を通して、英語を使ってコミュニケーションを取ることへの関心、意欲が高まっているとのこと。

〇小中一貫教育について
一つの中学校区を学園とし、中学校の校長先生が学園長を務める。学習のつながりを構築するのはもちろんのこと、地域とのつながりを作ることにも力を入れている。
〇新たな教育システムづくりについて
学校教育への地域住民参加による「地域で子どもを育てる学校づくり」を推進し、保護者、地域住民との交流や体験活動を通じ、コミュニケーション力や自尊感情を育みます。
〇池田の教育コミュニティづくりについて
学校と地域が協働して子どもの発達や教育のことを考え、子どもを中心にすえて具体的な行動をする。各中学校区に教育コミュニティづくり推進委員会を設置し、教育コミュニティづくり推進連絡会にて情報交換を行う。

（4） 事業実施による効果および問題点について
　英語活動においてはコミュケーション力が増し、「聞く」「話す」「読む」「書く」といったことにつながっている。こういった指導を小中一貫で行うことは非常に重要ではあるが、市民への周知がまだまだ足りていないとのこと。そのために、教育委員会としては「小中一貫教育に関するＱ＆Ａ」という、簡単な小冊子を精力的に配布しており、市民の皆様、保護者の皆様に理解を得る努力をしているとのこと。

（5） 今後の取り組みについて
　英語活動では、指導内容を子ども達の発達段階に合わせ、簡単な内容や活動がだんだん高度なものへとスパイラルに組み立てられている年間指導計画が必要とのこと。どの学級担任も自信を持って英語活動の授業を進めていくために、教職員の研修を充実させることも必要であるとのことでした。

池田市役所にて説明を受けている様子。担当の職員さん方の教育に対する情熱が伝わってきました。英語教育に関しては、当初あまり共感を得られなかったが、熱意で実現できたとのこと。

小中一貫教育を市民の皆様に理解していただくため、このＱ＆Ａを数多く配布しているとのこと。たくさん配布しても認知度は低いそうだが、やり続けなければいけないとの思いに共感。

各中学校区のパンフレット。中学校区を学園とし、中学校の校長が学園長を務め、小中一貫教育を推進している。市民の皆様に理解を得るため、このようなパンフレットも用意している。

最後は池田市役所前で集合写真。前列左から、末次委員、五十嵐副委員長、武藤委員長、杉山委員、池田委員。後列左から、藤井議会事務局庶務係長、田村正秋委員、串田委員。

視察成果のまとめ

大阪府八尾市

　歴史的な遺産である古民家を様々な方法で活用しているということが重要であるとのことでした。古民家があるからといって人が集まって来るわけではなく、その古民家を使って様々なイベントをやることで、古民家のこと、周辺の歴史のことに触れていただけることが大きな成果になるとのことでした。多くの団体に会場を使っていただくことで、多くの市民がそこに訪れる切っ掛けを得る。そういった仕組みの中で、職員、指定管理団体が知恵を出し合っていくことが大切であり、内容如何で利用率にも反映されるのでしょう。イベントの内容としては、JAZZコンサートや落語会、かまどでご飯炊き体験などと多岐にわたっており、関係者の努力が伺えました。福生市の旧田村邸については今後様々な検討がなされますので、今回の視察で得たことを参考にし、提案していきたいと感じました。

大阪府池田市

「教育のまち池田」という名前のもと、池田市教育委員会の教育に対して熱い想いを持っていることが伝わってきました。不登校や、学力の低下など、どの自治体にもある問題に対して真剣に向き合った結果が、今の体制になっているのであろう。英語教育の導入についても、当初はなかなか共感を得られなかったとのことだが、担当職員の熱意が現在に至っており、アンケートでは、楽しい80％、わかる75％、役立つ92％となっており、充分な成果が上がっていると言っても過言ではないと思う。また、小中一貫教育についても、児童生徒の立場で指導方法を模索しており、小中学校の段差、いわゆる指導の不連続性を解消し、児童生徒が勉強でつまずくことを少しでも回避しようとしている。中学校の先生が小学校に出向き、英語を教えることがあるという。中学校の先生にとっては、小学校の様子、児童の様子が分かるので、中学生になった時には参考になるとのことでした。

　今後も、当市において、地域コミュニティについても参考にしていきたいと感じました。